

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00522

研究課題名（和文）東アジア児童文学史の構築をめざして 出発としての国語教科書掲載作の検証

研究課題名（英文）Considering the construction of a history of East Asian children's literature: through an examination of works published in language textbooks in East Asia

研究代表者

成實 朋子（NARUMI, Tomoko）

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：40346226

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本・韓国・台湾・中国の四地域の小学校国語教科書について、それぞれの地域における歴史的変遷も踏まえた上で、掲載されている児童文学作品について検討し、東アジア児童文学史構築の基礎とするものである。

四地域それぞれの地域の小学校国語教科書の実態を押さえた上で、いずれの地域の教材選択も、知識中心主義的なものから、コンピテンシーベースなものへと方向性を切っており、それはいずれの地域もOECDモデルの影響を受けていることが明らかになった。ただそのコンピテンシー（素養）の捉え方に差異があることも明らかになった。この点は、本研究を深める上で、今後とも検証していく必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通じて、東アジア地域の小学校国語教科書の実態が明らかになった。これまで、二国間を対象とした研究はあったが、四地域を包括的に取り扱ったものは無かった。また、児童文学界の動きなどの相関性を踏まえながらの分析となったこともまた本研究の新しさである。本研究を通じて、各地域の小学校の国語教科書がそれぞれの地域の特色を反映しながら、グローバル社会の要求にいかに対応するかということについて模索していることが明らかになった。本研究の成果は、報告書の形にまとめられ、リポジトリとしても配信されており、今後の東アジア児童文学或いは国語教育研究に大いに資するものとなることが期待される。

研究成果の概要（英文）：This study examines elementary language textbooks in Japan, South Korea, Taiwan and China, taking into account the historical transition in each region, and examines the children's literature works included in them, in order to build a foundation for the history of children's literature in East Asia.

After examining the actual situation of elementary language textbooks in each of the four regions, it was found that the selection of teaching materials in each of the four regions has shifted from a knowledge-centred approach to a competency-based approach, and that this is due to the influence of the OECD model in each of the four regions. However, it was also found that there are differences in how the competencies are perceived. This will be the subject of further research.

研究分野：日中比較児童文学

キーワード：国語教科書 児童文学 中国 台湾 韓国 日本 比較児童文学 比較国語教育

1. 研究開始当初の背景

本課題研究においては、東アジア各地域で発行されている国語教科書に掲載されている児童文学作品を調査し、その差異と共通点を明らかにすることによって、各地域における「児童文学」の有り様の違いを浮き彫りにし、「東アジア児童文学史」構築のための基礎とする。国語教科書を最初のフィールドとした理由は、小学校国語教科書に掲載される児童文学作品が、各地域における児童文学の発展の過程を背景とし、それぞれの時代の要請や歴史の進展に対応しながら、選択されているからである。また現在いずれの地域でも教育改革が進行し、新しい教科書が出版されている最中である。それぞれの地域の国語教科書に掲載された児童文学作品を検証することによって、東アジア児童文学史を構築し、従来の日本児童文学史に対する見直しを図る。

2. 研究の目的

各地域の教科書の中に採択された「児童文学」作品は、各地域の学習指導要領等ナショナルカリキュラムに準拠しながらも、それぞれの地域の児童文学の動向を強く反映しており、いずれの地域においても多くの児童文学関係者がこれに関与している。ゆえに、東アジア各地域における小学校国語教科書における児童文学の取り扱われ方についてとりまとめていくことは、東アジア児童文学史を構築していく上での基礎となる。本研究は、従来の児童文学研究或いは国語教育研究の基盤に立ちながらも、各地域の中に留まるのではなく、東アジアという広い見地から検討するという点に新しさがある。それぞれの地域の小学校国語教科書が時代の要請をいかに受け取り、形にしているかということを確認し、地域の差異を明らかにすることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究を遂行するにあたっては、日本・韓国・中国・台湾、四つの地域の児童文学研究を専門とする者がそれぞれに各地域の小学校国語教科書を取り上げ、共通の観点を挙げながらそれぞれに分析し、各地域の国語教科書の特徴について明らかにしていく。研究メンバーの役割及び担当地域は下記の通りである。

研究代表・台湾：成實朋子（大阪教育大学）

研究メンバー・日本：西山利佳（青山学院大学）

研究メンバー・韓国：大竹聖美（東京純心大学）

研究メンバー・中国：浅野法子（大阪成蹊短期大学）

研究助言：佐藤宗子（千葉大学名誉教授）

4. 研究成果

本研究の目的は、「東アジア児童文学史」構築のための基盤づくりのために、東アジア四地域の小学校国語教科書に掲載された児童文学作品について調査し、まずはこれをまとめることである。そのため、研究メンバーはそれぞれに各地域の国語教科書並びに関連図書を入手した上で、資料整理をすることから研究を始めた。そのうえで、毎年調査する項目を定め、それぞれの地域の教材を整理し、ミーティングを通じて討議を行った上で、その成果をまとめた。研究期間がコロナ禍にあったため、参加を予定していた国際大会が延期されたり、予定していた海外・国内への調査に赴くことが出来なかったり等研究計画は幾度も変更を余儀なくされたが、ひとまず研究メンバー

は、必要な資料を入手し、調査を行い、研究を遂行することができた。

研究成果は、国際大会やメンバーの所属する学会等で発表を重ねながら、適宜公開していった。まず 2020 年度にオンラインの形で実施されたアジア児童文学大会（大邱）において、研究代表である成實が本件について口頭発表を行った。その上で、毎年秋季に行われる日本児童文学学会において、研究メンバー全員で口頭発表を行い、それぞれの研究成果を共有するとともに、学会参加者からの意見を仰ぎ、研究を深めた。

以下にあげるのは、2020 年から 2022 年にかけて、日本児童文学学会ラウンドテーブルにおいて行った研究発表である。

2020 年 第 59 回大会（於東京純心大学・オンライン）

「東アジアにおける国語教科書と児童文学 東アジア児童文学史の構築をめざして」

2021 年 第 60 回大会（於大阪府立中央図書館）

「東アジアの小学校国語教科書における翻訳児童文学 日中韓台の比較から」

2022 年 第 61 回大会（於宮城教育大学）

「東アジアの小学校国語教科書における児童文学を考える 伝統的言語文化に関する教材を中心に」

以上のように、初年度はそれぞれの地域の児童文学作品に、二年目は翻訳作品に、三年目は昔話等伝承文学や古典にフォーカスしながら研究を行った。四年目はその調査結果についてすべて報告書としてまとめ、公刊するとともに、論文については、東京純心大学のリポジトリを通じて公表した。

本研究を通じて、東アジア地域の小学校国語教科書の実態が明らかになったことが最大の成果である。報告書には、各地域の国語教科書の掲載作品が全て分類されリストアップされていて、それぞれの地域の特性が分かるようになっている。これまで、二国間を対象とした同種の研究はあったが、四地域を包括的に取り扱ったものは無く、また同一の研究項目をたてて行った研究は無かった。報告書にまとめられた資料は、今後比較国語教育研究・比較児童文学研究を行っていく上での基礎資料となり得るものである。

その基礎資料を検討する中から、現段階で明らかになったことは幾つもある。例えば、一年目の児童文学作品の検討からは、それぞれの地域の教科書の中に描かれた「郷土」の在り方の違いが明らかになった。例えば台湾では外国にルーツを持つ子どもが登場する話が少なからず選ばれており、自国の課題が鮮明である。

二年目の翻訳作品の検討からは、いずれの地域においても、グローバル社会が進展する中で、「海外」と自国の文化をいかに切り結ぼうとしているのかということが意識されていることが明らかになった。その上で、三年目の伝統的言語文化の教材の検討からは、選ばれた民話や古典の教材の選定に明らかな違いがあり、それぞれの地域において育むべきとされている「教養」の在り方の差異が明らかになった。

全体に共通しているのは、いずれの地域の教材選択も、知識中心主義的なものから、コンピテンシーベースなものへと方向性を切っているということである。これはむしろ、いずれの地域も OECD モデルの影響を受けているということであり、総体的に活用型の学力の育成が最優先に考えられているということである。しかしただ活用的であるということをも求めているということにおいては共通点があるものの、そのコンピテンシー（素養）の捉え方には明らかに差異があった。その点については、今後更に検討が必要である。

本研究を通じて、各地域の小学校の国語教科書がそれぞれの地域の特色を反映しながら、グローバル社会の要求にいかに応えるかということについて模索しているということ

が分かった。本研究の成果は、今後の東アジア児童文学或いは国語教育研究に大いに資するものとなることが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

著者名 浅野法子	4. 巻 27
2. 論文表題 現行の小学校「語文」教科書と児童文学	5. 発行年 2021
3. 雑誌名 中国児童文学	6. 最初と最後のページ 23 - 31

著者名 大竹聖美・池好順	4. 巻 25
2. 論文表題 現代韓国児童文学の特徴 韓国初等学校国語教科書掲載作品を通して考える	5. 発行年 2021
3. 雑誌名 東京純心大学紀要 現代文化学部	6. 最初と最後のページ 25 - 39
https://doi.org/10.57503/0002000122	
オープンアクセス	

著者名 大竹聖美・池好順	4. 巻 26
2. 論文表題 国語教科書掲載作を通して考える韓国における外国児童文学受容の特徴と其の変化 2015年改訂版(第7次教育課程)韓国初等学校国語教科書と1995年改訂版(第6次教育課程)韓国国民学校国語教科書を比較して	5. 発行年 2022
3. 雑誌名 東京純心大学紀要 現代文化学部	6. 最初と最後のページ 17 - 27
https://doi.org/10.57503/0002000010	
オープンアクセス	

著者名 大竹聖美・池好順	4. 巻 27
2. 論文表題 「韓国初等学校国語教科書(第7次教育課程・2015年改訂版)と教科書掲載昔話 伝統文化尊重と現代社会対応としての多様性受容・ジェンダーフリーメッセージ」	5. 発行年 2023
3. 雑誌名 東京純心大学紀要 現代文化学部	6. 最初と最後のページ 21 - 32
https://doi.org/10.57503/0002000007	
オープンアクセス	

〔学会発表〕(計 4 件)

発表者名：成實朋子
発表題目：東アジアにおける国語教科書と児童文学 東アジア児童文学史の構築をめざして
学会等名：アジア児童文学大会第 16 回大会（於韓国大邱・オンライン）国際学会
発表年：2020 年

発表者名：成實朋子・西山利佳・浅野法子・大竹聖美 佐藤宗子（コメンテーター）
発表題目：東アジアにおける国語教科書と児童文学 東アジア児童文学史の構築をめざして
学会等名：日本児童文学学会第 59 回大会（於東京純心大学・オンライン）
発表年：2020 年

発表者名：成實朋子・西山利佳・浅野法子・大竹聖美 佐藤宗子（コメンテーター）
発表題目：東アジアの小学校国語教科書における翻訳児童文学 日中韓台の比較から
学会等名：日本児童文学学会第 60 回大会（於大阪府立中央図書館）
発表年：2021 年

発表者名：成實朋子・西山利佳・浅野法子・大竹聖美 佐藤宗子（コメンテーター）
発表題目：東アジアの小学校国語教科書における児童文学を考える 伝統的言語文化に関する教材を中心に
学会等名：日本児童文学学会第 61 回大会（於宮城教育大学）
発表年：2022 年

〔報告書〕(計 1 件)

報告書題目：東アジアにおける国語教科書と児童文学 東アジア児童文学史の構築をめざして
成實朋子「東アジア三地域（韓国・中国・台湾）における国語教育と教科書の概況」 https://t-junshin.repo.nii.ac.jp/records/2000123
西山利佳「日本の国語教科書と児童文学」 https://t-junshin.repo.nii.ac.jp/records/2000124
大竹聖美「2015 年改訂版・韓国初等学校国語教科書を通して考える現代韓国児童文学」 https://t-junshin.repo.nii.ac.jp/records/2000126
浅野法子「中国の国語教科書と児童文学」 https://t-junshin.repo.nii.ac.jp/records/2000127
成實朋子「台湾の国語教科書と児童文学」 https://t-junshin.repo.nii.ac.jp/records/2000128
（資料）「日本の小学校国語教科書に載った児童文学作品」（西山）
（資料）「韓国の小学校国語教科書に載った児童文学作品」（大竹）
（資料）「中国の小学校国語教科書に載った児童文学作品」（浅野）
（資料）「台湾の小学校国語教科書に載った児童文学作品」（成實）
総ページ数：70
発行年：2024
東京純心大学のリポジトリを通じてオープンアクセス

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大竹, 聖美, 池, 好順	4. 巻 27
2. 論文標題 韓国初等学校国語教科書（第7次教育課程・2015年改訂版）と教科書掲載昔話 伝統文化尊重と現代社会 対応としての多様性受容・ジェンダーフリーメッセージ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京純心大学紀要 現代文化学部 = Bulletin of the Faculty of Modern Culture, Tokyo Junshin University 7	6. 最初と最後の頁 21-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57503/0002000007	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 浅野法子	4. 巻 27
2. 論文標題 現行の小学校「語文」教科書と児童文学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国児童文学	6. 最初と最後の頁 23 - 31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大竹聖美、池好順	4. 巻 25
2. 論文標題 現代韓国児童文学の特徴：韓国初等学校国語教科書掲載作品を通して考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京純心大学紀要	6. 最初と最後の頁 25 - 39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57503/0002000122	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大竹聖美、池好順	4. 巻 26
2. 論文標題 論文表題 国語教科書掲載作を通して考える韓国における外国児童文学受容の特徴と其の変化 2015年改 訂版（第7次教育課程）韓国初等学校国語教科書と1995年改訂版（第6次教育課程）韓国国民学校国語教科 書を比較して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京純心大学紀要	6. 最初と最後の頁 17-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57503/0002000010	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成實朋子	4. 巻 -
2. 論文標題 東アジア三地域（韓国・中国・台湾）における国語教育と教科書の概況	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東アジアにおける国語教科書と児童文学 東アジア児童文学史の構築をめざして	6. 最初と最後の頁 3-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山利佳	4. 巻 -
2. 論文標題 日本の国語教科書と児童文学	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東アジアにおける国語教科書と児童文学 東アジア児童文学史の構築をめざして	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大竹聖美	4. 巻 -
2. 論文標題 2015年改訂版・韓国初等学校国語教科書を通して考える現代韓国児童文学	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東アジアにおける国語教科書と児童文学 東アジア児童文学史の構築をめざして	6. 最初と最後の頁 18-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅野法子	4. 巻 -
2. 論文標題 中国の国語教科書と児童文学	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東アジアにおける国語教科書と児童文学 東アジア児童文学史の構築をめざして	6. 最初と最後の頁 27-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成實朋子	4. 巻 -
2. 論文標題 台湾の国語教科書と児童文学	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東アジアにおける国語教科書と児童文学 東アジア児童文学史の構築をめざして	6. 最初と最後の頁 34-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 成實朋子・西山利佳・大竹聖美・浅野法子
2. 発表標題 東アジアの小学校国語教科書における児童文学を考える 伝統的言語文化に関する教材を中心に
3. 学会等名 日本児童文学学会第61回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 成實朋子
2. 発表標題 東アジアの国語教育と児童文学 東アジア児童文学史構築に向けて
3. 学会等名 第15回アジア児童文学大会 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 成實朋子・浅野法子・大竹聖美・西山利佳
2. 発表標題 東アジアの小学校国語教科書における翻訳児童文学 日中韓台の比較から
3. 学会等名 日本児童文学学会第60回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 成實朋子・西山利佳・大竹聖美・浅野法子
2. 発表標題 東アジアにおける国語教科書と児童文学－東アジア児童文学史の構築をめざして－ 全体概要・台湾
3. 学会等名 日本児童文学学会第59回大会ラウンドテーブル
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大竹 聖美 (Otake Kiyomi) (60386795)	東京純心大学・現代文化学部・教授 (32698)	
研究分担者	浅野 法子 (Asano Noriko) (60759306)	大阪成蹊短期大学・グローバルコミュニケーション学科・教授 (44413)	
研究分担者	西山 利佳 (Nishiyama Rika) (70785526)	青山学院大学・コミュニティ人間科学部・准教授 (32601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐藤 宗子 (Sato Motoko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------